

「WFP チャリティー エッセイコンテスト 2026」

協賛・寄付協力のご案内

目次

1 「WFP チャリティー エッセイコンテスト」概要・目的	2
2 2026 年実施概要	3
3 ご支援方法（協賛・寄付のどちらか、両方）.....	4
① 協賛.....	4
② 寄付協力（マッチング寄付）.....	5
4 参考：2025 年実績.....	7
5 国連 WFP の学校給食支援.....	9



お申込み締切：5月22日（金）17:30

ご協賛振込み：10月30日（金）、ご寄付振り込み：12月31日（木）

【本件についてのお問い合わせ先】

認定 NPO 法人 国連 WFP 協会 企業・団体連携チーム TEL：045-221-2515 メール：kigyo@jawfp.org

1 「WFP チャリティー エッセイコンテスト」概要・目的

2004年「WFP 生徒作文コンクール」小・中学生の夏休みの課題として開始。2011年「WFP エッセイコンテスト」とし、小学生～大人に対象を拡大してリニューアル。「WFP チャリティー エッセイコンテスト」として今年も16回目を迎えます。

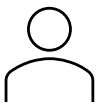
- 食べることを題材にした文章作成を通じて、「**飢餓**」への関心を向上
- 国連WFPの「**学校給食**」への支援の輪を広げる
- 応募1作品につき給食1人分が寄付協力企業により寄付され、国連WFPの「**学校給食支援**」に活用



【世界の食料問題】

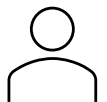
- 世界には全ての人に十分な食料がある
- 一方、最大6億7,300万人が飢餓状態

2025年受賞者の声

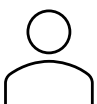


ネパールの小さな村で育ち、食べることは命と希望をつなぐ力であると実感してきました。日本で身につけた経験と知識を生かし、日本と世界をつなぐ架け橋として、誰もが温かいご飯を食べられる世界を目指してきました。このような栄誉ある賞をいただき、心より感謝申し上げます。

世界には、十分に食事をとることができない人が多くいると感じています。母の話を通して、小さな子どもを抱えるお母さんたちも例外ではないと気づきました。母のカレーが人に元気と力を与えたように、私の書いた言葉も誰かの心を動かし、世界のどこかで命をつなぐご飯になってくれたら嬉しいです。

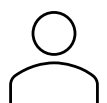


2025年表彰式に出席した企業の声



当社は事業を通じて豊かな社会の実現を目指すことを大切にしています。本日、皆さまの作品から、日常の気づきを行動へとつなげている姿勢が伝わり、多くの学びと感動をいただきました。これからの取り組みにも、大きな期待を寄せています。

社会貢献活動において最も大切なのは、一方的に行うのではなく、支援を必要とする人と対話し、その声を共有し、行動へとつなげることだと考えています。本コンテストは、自分の想いを言葉にし、周囲と共有し、社会の力へとつなげる素晴らしい取り組みだと感じています。



2 2026 年実施概要

- 【テーマ】 **今日の食事が当たり前でなくなったら**
私たちの多くが当たり前で食べている一食。その一食は、世界の誰かにとっては簡単に手に入らないものかもしれません。もし今日、食べ物が手に入らなくなったらあなたはどどう感じるでしょうか。食べられることの意味や大切さについてあなたが感じた思いや気づきをエッセイにしてみませんか。
- 【募集期間】 6月10日(水)～9月30日(水) (紙応募×切9月25日、WEB応募×切9月30日)
- 【部門】 ①小学生部門(4, 5, 6年生) ②中学生部門 ③高校生部門 ④高校生を除く18歳以上部門
- 【寄付】 応募1作品につき給食1人分(30円)がそれぞれの寄付協力企業から国連WFPに寄付され、学校給食支援に役立てられます。
- 【各賞】 全31賞
最優秀賞(大賞): 1、部門賞:各1、審査員特別賞:各部門1、佳作:各部門5、WFP賞:1、WFP学校給食賞(応募数上位の学校・団体に授与):1
- 【審査員】
※敬称略
・特別審査員: ふなっしー、広瀬アリス、竹下景子、マリウス葉
・審査委員長: 堀潤
・審査委員会: 折茂美保、本田亮、忍足謙朗、三浦豪太、三國清三、青木創
- 【発表・表彰式】 WFPチャリティーエッセイコンテスト専用ウェブサイトにて入賞者の氏名と入賞作品を発表
※入賞作品はWEBサイトより印刷してご活用いただけます。紙の作品集冊子の作成はございません。
11月18日(水) 表彰式実施(於: コートヤード・マリオット銀座東武ホテル)
- 【賞品】 最優秀賞・部門賞・審査員特別賞・WFP賞・学校給食賞受賞者には、表彰式にて賞状と賞品を進呈。
佳作受賞者には賞状を送付。
- 【入賞作品展示】 入賞作品や国連WFPの活動紹介の展示を実施
開催時期: 11月29日(日)～12月3日(木)
会場: 日本橋ガレリア コミュニティスペース (東京都中央区日本橋 2-5-1)
展示内容: 受賞作品の展示(佳作、WFP学校給食賞は氏名(学校名)のみ)、協賛企業一覧、国連WFPの学校給食支援紹介等

2026年の特徴

① エッセイの告知開始時期の前倒し

昨年より告知開始時期を1か月早めることによって、本イベントへ取り組みやすい環境を作ります。

- ・5月中旬: WEBサイトオープン予定
- ・6月10日: 申込開始、協賛企業オープン

② 入賞作品の展示会実施

入賞作品を、日本橋高島屋様に隣接する日本橋ガレリアコミュニティスペースに展示いたします。より多くの方に本イベントと国連WFPの活動を知っていただく機会を作ります。

3 ご支援方法（協賛・寄付のどちらか、両方）

① 協賛

基本協賛プラン

	特別協賛	協賛 A	協賛 B
	100 万円	50 万円	10 万円
	(10 口以上+税)	(5 口以上+税)	(1 口以上+税)
① 社名掲載(ロゴ) a.専用ウェブサイト b.表彰式会場で放映するスライド・録画 YouTube 公開 c.入賞作品展示パネル	○(大)	○(小)	-
② 社名掲載(テキスト) 上記(a~c)プラス d.イベントチラシ(1.5 万部予定) e.プレスリリース	○	○	○
③ 表彰式での協賛社名アナウンスとご登壇	○	-	-
④ 国連 WFP「学校給食支援」に関する社内向けオンライン説明会※	○	○	
⑤ 2026 年発行 当協会年次報告書への社名記載(テキスト)	○	-	-

※④国連 WFP「学校給食支援」に関する社内向けオンライン説明会

～社員向け、家族向けに「食料」の重要さや途上国の子ども支援の必要性を周知する機会として活用しませんか～

- 実施タイミング：「エッセイコンテスト」を社内に案内し、関連レクチャーとして開催。あわせてエッセイの応募を促す
- 説明会の所要時間：約 30 分
- 内容事例：国連 WFP の概要、子どもへの支援活動→皆さんが取り組める応援事例、エッセイコンテストの紹介→Q&A

※ご要望を踏まえて、発表内容を確定していきます。

オプション

	特別協賛	協賛 A	協賛 B
⑥ 子ども、または親子向けイベントへの登壇 (+10 万円)	○	○	○
⑦ 副賞商品提供 WFP 賞および部門賞の副賞スポンサー 例：文房具など、要相談(入賞者分)	○	○	○
⑧ 入賞作品展示会の出展協力 (+20 万円)※ 入賞作品パネル等の展示物制作スポンサー リリース等に「協力：XX 株式会社」等掲載 展示会開催後にはパネルを貸出しますので、社内等で展示可能です (送料のご負担をお願いいたします)	○	○	○

※⑧入賞作品展示会の出展協力

開催時期：11月29日(日)～12月3日(木)

会場：[日本橋ガレリア コミュニティスペース](#) (東京都中央区日本橋 2-5-1)

展示内容：受賞作品の展示(佳作、WFP 学校給食賞は氏名(学校名)のみ)、協賛企業一覧、国連 WFP の学校給食支援紹介等

想定来場者：応募者、受賞者とその関係者、特別審査員のファン、日本橋高島屋来店者(およそ5万人/日程度、土日やや増)

イベント後は作品パネルをお貸出し可能ですので、ぜひ社内や店舗等のスペースで展示ください。

② 寄付協力 (マッチング寄付)

- ・寄付額 : 応募 1 作品につき給食一日分(30 円)
【ご参考】25 年は 65 万 5,620 円 (21,854 通×30 円)
- ・寄付の用途 : 国連 WFP の学校給食支援に役立てます
- ・支払時期 : エッセイの応募数確定後、寄付依頼書を送付いたします。(11 月初旬予定)
- ・企業露出 : ● 下記への社名掲載 (テキスト)
 - a 専用ウェブサイト b.表彰式会場で放映するスライド、表彰式録画 YouTube 公開
 - c.入賞作品展示パネル d.イベントチラシ(1.5 万部予定) e.プレスリリース

4 参考：2025年実績

**学校給食
43,708人分**

- 【テーマ】 「すべての人に食べ物を」私ができること (200字～800字)
- 【募集期間】 7月7日(月)～ 10月20日(月)
- 【専用ウェブサイト】 <https://www.wfpessay.jp/2025/>
- 【審査員】 特別審査員(ふなっしー、広瀬アリス、竹下景子、マリウス葉)
審査委員会(堀潤、折茂美保、本田亮、忍足謙朗、三國清三、青木創)※敬称略
- 【応募数】 **21,854通**
内訳)小学生部門 1,405 作品、中学生部門 10,861、高校生部門 8,965 作品、18歳以上部門 530 作品
- 【寄付】 **1,311,240円** (応募総数 21,854 通×30円×寄付協力企業 2社)
- 【発表・表彰式】 専用ウェブサイトにて発表、11月25日(火) 表彰式実施
▼入賞作品・写真・動画をご覧ください▼
<https://www.wfpessay.jp/2025/result.html>

後援	世界食糧計画 (WFP) 日本事務所、外務省、農林水産省、文部科学省、全国都道府県教育委員会連合会、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、朝日新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社、東京新聞、NHK
特別協賛	日清食品ホールディングス株式会社、三菱UFJ銀行
寄付協力	日清食品ホールディングス株式会社、三菱商事株式会社
協賛	株式会社エレテックコーポレーション、TOPPAN 株式会社、日清食品チルド株式会社、伊藤忠商事株式会社、伊藤忠リーテイルリンク株式会社、井村屋グループ株式会社、株式会社カネカ、株式会社湖池屋、ココヨ株式会社、株式会社小学館、昭和産業株式会社、株式会社真誠、真如苑、株式会社日本食糧新聞社、ハニューフーズ株式会社、プリマム株式会社、ぼんち株式会社、三菱食品株式会社、株式会社 MIYOSHI、無二亦寺、株式会社村内ファニチャーアクセス、株式会社モリサワ、ヤマト住建株式会社
協力	コートヤード・マリオット銀座東武ホテル

【メディア掲載】

- 告知掲載/表彰式開催前(計 98 件) : 全私学新聞、日本食糧新聞、小学館、東京新聞等
- 表彰式開催後(計 373 件) : めざましテレビ、THE TIME、スポーツ報知、日刊スポーツ、サンケイスポーツ、デイリースポーツ、スポーツニッポン、マイナビニュース、中日スポーツ、ザテレビジョン、ライブドアニュース、食品新聞等

【応募校】 約 330 校

■ 中学高校

国際基督教大学高等学校、京都先端科学大学附属中学校・高等学校、慶應義塾湘南藤沢、慶應義塾普通部、渋谷教育学園渋谷中学校、頌栄女子学院中学校、白百合学園高等学校、須磨学園中学校・高等学校、逗子開成中学校、四天王寺中学校・高等学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校、東京女学館中学校、東洋英和女学院高等部、田園調布学園中等部・高等部、浜松聖星高等学校、武蔵野大学中学校・高等学校、横浜雙葉中学校、早稲田大学本庄高等学院、学校法人ヴィアートル学園洛星中学高等学校、東京都公立学校 11 校、神奈川県公立学校 21 校 等

■ 小学校

青山学院初等部、カリタス小学校、湘南白百合学園小学校、白百合学園小学校、東洋英和女学院小学校、東京都公立学校 5 校、神奈川県公立学校 6 校 等

最優秀賞

寄り添うかたち

栃木県 宇都宮大学共同教育学部附属中学校 2年 関 桃羽^{せきももは}さん

「はい、どうぞ。」

紙袋を受け取った女の子はうつむいた。

「どうしたの?」とのぞきこんだ私を避けるように、涙をうかべて走り去ってしまった。

それは、夏休みに入ってからすぐの日曜日。私はフードバンクの食品配布会にボランティアとして参加していた。子育て世帯を対象とした会場は大盛況で、食品を詰めた紙袋は次々と手渡され、笑顔とともに消えていった。眠る赤ちゃんを背負って帰るお母さん、僕の仕事と言わんばかりに紙袋を両手で抱え歩く少年—いろんな背中を見送りながら、私は心の中で「お腹いっぱい食べてね。」とつぶやいた。

満足感と疲労感、今日一日を表す言葉にぴったりだ。けれど、涙をうかべたあの女の子の表情が、帰宅後も私の胸に残り続けた。

数日後、フードバンクに一通の手紙が届いた。

「先日はありがとうございました。私の家は母子家庭で弟が三人います。経済的に厳しく、食品配布会に深く感謝しています。でも、あの時は、同じぐらいの年頃の子から食料を受けとる自分が恥ずかしくなって、あんな態度をとってしまいました。突然驚かせてしまってごめんなさい。」

その手紙を読み、私ははっとした。食べ物に困っている人を助ける、という私の認識の甘さに気づかされたのだ。単に食べ物を配って喜んでもらう活動ではない。感謝の言葉の裏に、支援を受けることへの葛藤や痛みが潜んでいる。自分の弱さをさらけ出すことの恐怖に、寄り添うことが必要なのだと感じた。

「助ける」よりも「寄り添う」こと。支援とは「誰かを引っばる」ことではなく、「隣で一緒に歩く」こと。そんな支援者に、私はなりたい。

そうだ、手紙の返事を書こう。あの子の好きな食べ物はなんだろう。私は卵焼きだよ。甘くて、やさしい味がするから。

選者のコメント

あなたの作品は、「誰かを助けたい」という気持ちの裏にある、一方的な思いや行動が、時に相手を傷つけてしまうことがあるという、人と人との関わりの難しさを、丁寧に描き出していました。

涙を見つめ、戸惑い、考え抜いたその経験の中に、「支援」とは何かを自らの心で問い直す誠実さがありました。あなたの気づきは、助けることよりも「寄り添うこと」の尊さを教えてくれます。

この作品には、人へのまなざしの深さと、社会を見つめる想像力が息づいています。

どうかこれからも、そのやさしさと洞察力を大切に、あなたの言葉で世界を照らしていきましょう。

ジャーナリスト 元NHKアナウンサー
堀 潤 さん

受賞者のコメント

このたびは最優秀賞という大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます。フードバンクでのボランティア活動を通して「助ける」よりも「寄り添う」ことの大切さを深く感じました。今回の受賞を励みに、これからも人の心に寄り添えるような活動や表現を続けていきたいと思えます。改めて、選考に関わってくださった皆様に心より感謝申し上げます。

▼その他入賞作品・写真・動画をご覧ください▼

[入賞作品発表 | WFP チャリティー エッセイコンテスト 2025](#)

5 国連 WFP の学校給食支援

国連 WFP は飢餓のない世界を目指して活動する国連唯一の食料支援機関です。120 以上の国と地域に拠点を置き、**2024 年は 1 億 2,400 万人に食料支援を実施しました。**

また、2020 年には、飢餓との闘いに尽力してきたこと、紛争地域で平和に向けた状況改善に貢献したこと、飢餓が紛争の武器として利用されることを阻止する原動力となったことに対して、ノーベル平和賞を受賞しました。認定 NPO 法人国連 WFP 協会は、日本における国連 WFP の公式民間支援窓口として、募金活動や企業・団体との連携、広報活動を行っています。

世界では 5 人に 1 人の子どもが慢性的栄養不足に陥っています。

十分に食べ物と栄養を摂っていない子どもたちは、勉強に集中することができません。また多くの子どもたちが、家庭の労働の担い手になるなどして、小学校に通うことすらできていません。

こうした問題を解決するため、国連 WFP は子どもたちが健全に成長し、学び、貧困を克服できるよう学校給食支援を行っています。2024 年は 2,000 万人の子どもに給食を届けました。

【学校給食支援の効果】

- 健全な成長を支える
- 教育の機会を広げる
- ジェンダーの平等
- 社会や国の発展につながる



給食には女の子の未来を大きく変える力があります 南スーダンのバキタちゃん (小学 8 年生)

「私の住んでいる地域を助けるために、お医者さんになりたいです。学校では友達と一緒に遊んだり、本を読んだり、学んだことを話しています。」

児童婚は教育の妨げとなり、貧困や早期妊娠のリスクがありますが、生活が苦しい家庭では家計の負担を減らすために娘を早く結婚させることがあります。しかし、学校に給食があると親たちは「娘を学校に通わせるよう」と考えるようになるのです。給食には女の子の未来を大きく変える力があります。



学校給食のおかげで、子どもたちは少なくとも 1 日 1 回は食事をすることができます ハイチのラックメインさん

ラックメインさんは 3 人の子どもの母親です。「朝も晩も、子どもたちには何も食べさせるものがない時があります。その中で、学校の給食は大きな支えです。学校給食があるおかげで、子どもたちは少なくとも 1 日 1 回は食事をすることができます。」

ハリケーンや豪雨、干ばつなどの気候変動の影響や、武装勢力の暴力が続き、540 万人が深刻な飢餓に直面しているハイチでは、学校給食が社会保障の土台の一つとなっています。